

平成27・28年度熊本県教育委員会指定
「生きる力」を育む研究指定校事業
心の教育研究推進校



研究紀要



研究主題

「自他のよさを認め合い、互いに高め合う生徒の育成」
～よりよい人間関係づくりと学び合う活動の工夫を通して～

平成29年2月6日（月）
水俣市立水俣第一中学校

1 主題設定の理由

(1) 学校教育目標から

本校の教育目標は「《地域の教育力をベースに》～夢があり 心があり 力がある生徒の育成～」である。この学校教育目標は、生徒一人一人が自分の将来の夢や学校生活、学習面等に対する目標を持ち、その実現に向かって積極的に取り組もうとする心や力の育成を目指すものである。そのためには、生徒個々が自分自身をしっかり見つめ、他の様々な立場の人たちから学ぼうとする姿勢や互いに切磋琢磨しながら高め合おうとする姿勢が必要である。このような資質・能力を育み、望ましい言動として表出できるためには、よりよい人間関係を築くことができるようになるための取組を学校総体として行っていかなければならない。特に、授業においては「学び合い」を設定し、他の人の考え方と比較することを通して、自分の考え方を広げたり、深めたり、高めたり、再構築したりできるようにしていかなければならない。これらのことから、本研究主題を設定した。

(2) 昨年度の実践の反省から

ア 道徳教育に関して

- (ア) 道徳の授業における学び合いの充実のために発問の質の向上を図り、考え、議論する授業への改善を行う。
- (イ) 行事等との関連を図った道徳教育の充実を図る。
- (ウ) 道徳の授業における評価方法の工夫・改善を行う。

イ 特別活動に関して

自他のよさを認め合い、高め合う集団づくりに重点を置く必要がある。

ウ 学習指導に関して

学び合いを核にして授業改善を図り、学習指導を充実させることに一層取り組んでいく必要がある。

○個人の学習状況として、1日2時間（120分）以上の学習時間達成者は増加傾向にある。

●予習・復習など家庭学習の習慣に課題がある。

2 研究主題について

(1) 「自他のよさを認め合う」とは

自己自身や他の人を大切に思うことができ、それを言動に表すことができる状態のこととする。

「よさ」とは、他から見て、「その人らしいところ」や「考え方のすばらしいところ」であり、自分からみて「自分を好きになれるところ」「自分で誇りに思えるところ」であるととらえる。活動の中で「よさ」をとらえるとき、結果の「よさ」だけにとどまらず、活動の過程における「よさ」にも目を向け、個人の伸びや頑張りにも着目することが大切であると考える。

さらに、学級内の生徒一人一人が気持ちよく学習に向かうことができるような学習規律を整えることは自他のよさを認め合い、高め合える関係性の土台となる。

(2) 「互いに高め合う」とは

芦北管内統一事項の授業づくりを通して、1単位時間、単元指導、学期指導、そして年間の指導目標を達成するための「学び合い」の場面設定を重点として考えた。学び合いによって自ら根拠をもった考え方を持ち、自らの考え方を述べ合い、友だちの考え方と比較しながら多様な考え方気づき、思考を深めるとともに自他を認めることができるであろう。また、ねらいに迫るために練り合いの中で、自らの考え方を深め、創意工夫できる思考力の高まりをめざす。

すなわち、本研究テーマで迫る、目指す生徒の姿は、

〈人間関係〉の視点から

- ・他者意識をもち、最低限の学習ルールやマナーを守ることができる生徒。
- ・互いに努力する姿に気づき、認めることができる生徒。
- ・自律的に立場をわきまえた言動ができる生徒。
- ・好き嫌いがあろうとも、誰とでも学習活動に取り組むことができる生徒。
- ・互いに励まし合い、切磋琢磨しながら高め合う関係性がある生徒。
- ・友だちや先生、親、地域の方々などのおかげで自分の生活があることに気づき、感謝の心を持った生徒。
- ・人のために何ができるかを考え、人のために行動しようとする生徒。

<学力>の観点から

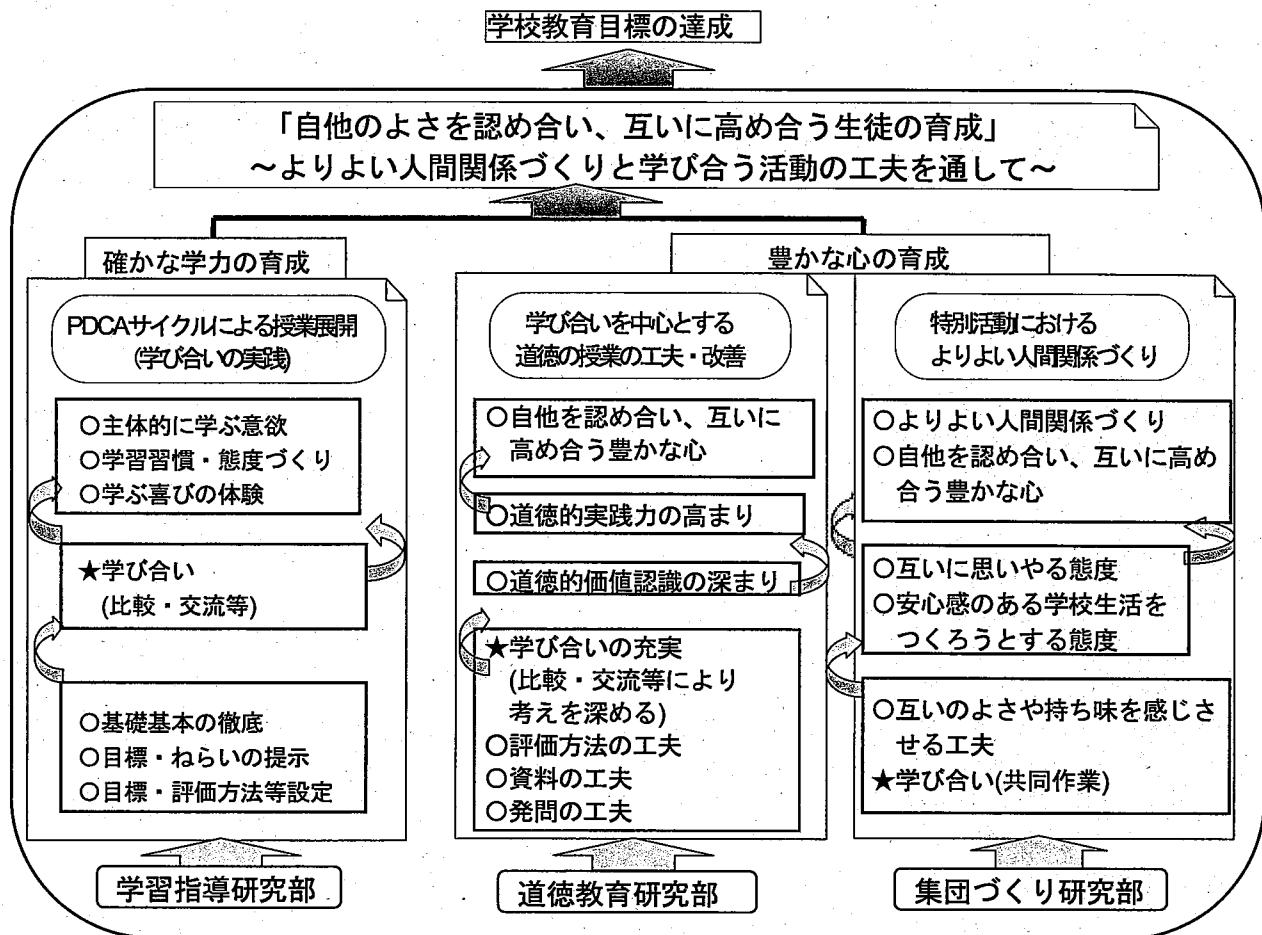
(知識技能・活用力)

- ・「基礎学力」が身についた生徒。
- ・知識・技能を活用する力を身につけた生徒。

(学習態度・学習習慣)

- ・何を、どれくらい、いつまでできるようになるという見通しを持って学ぶ生徒。
- ・苦手なことや難しいことに挑戦してみようとする態度を身につけた生徒。
- ・予習・授業・復習などの学習サイクルを理解して学び方が身についた生徒。

3 研究構想



4 研究の仮説

(1) 道徳の授業において、資料や発問等を工夫して、自他のよさに気づき、認め合う「学び合い」の場面を継続的に展開していくけば、道徳的価値の認識を深めることができ、高め合う豊かな心が身につくであろう。

(2) 行事や生徒会活動、学級活動を中心として、互いのよさや持ち味を感じさせる工夫をしてこちよく生活する環境づくりをしながら、共同での取組を展開していくけば、互いに思いやる態度や、安心感のある学校生活をつくっていこうとする態度が身につくであろう。

(3) 学習環境の工夫改善を図りながら、各教科において、「学び合い」の場面を計画的に展開していくけば、ともに学ぶ喜びを感じ、主体的に学ぶ意欲が身につくであろう。

5 研究の実際

(1) 道徳教育研究部の取組

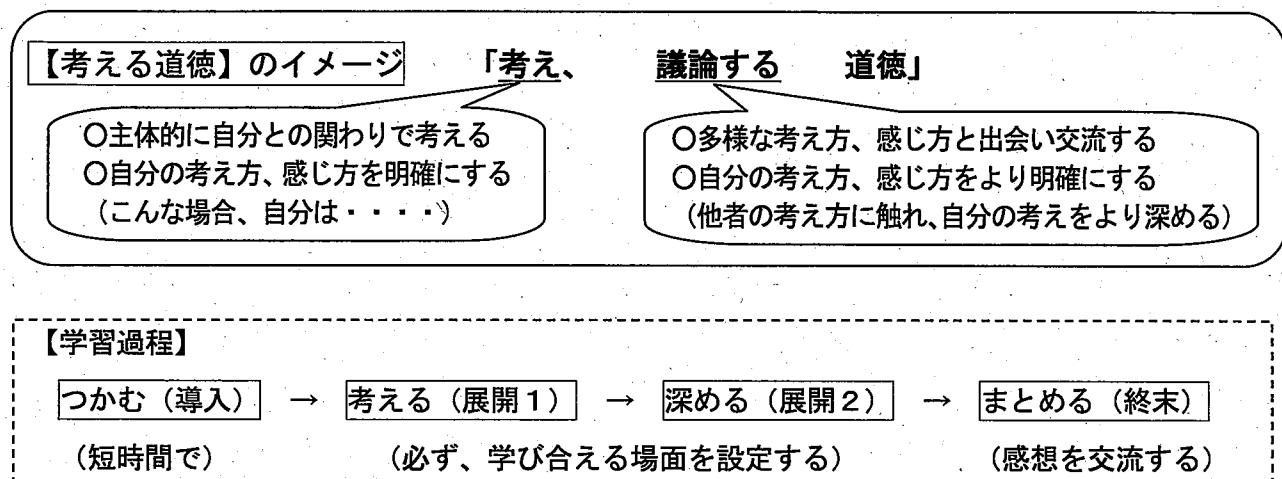
道徳教育研究部では、道徳の時間の充実を目指し、主に教材や発問等の工夫に取り組み、学びを深める「学び合い」の充実、生徒の道徳性を養うための授業改善、適切な評価方法の工夫を中心に実践を積み重ねてきた。

本校の取組を「熊本県道徳教育推進協議会からの提言」との関連から、7つの視点としてまとめると次のとおりである。

ア 視点1：多様な指導方法の工夫（熊本県道徳教育推進協議会からの「提言1」に関連）

(ア) 道徳の時間の捉え方について

これまでの道徳の時間は、登場人物の心情理解のみの指導であったり、主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験を問う時間になりがちであった。そこで、道徳の時間の捉え方を明確にし、共通理解を図ることに取り組んだ。また、学習過程を「つかむ」「考える」「深める」「まとめる」の4段階とし、考えを持ち、深めることができるような授業展開にするようにした。



(1) 発問の質を高める取組

本時の展開や発問を考える前に、先ず、内容項目の分析と把握をしっかりと行い、本時のねらいを明確にすることにした。さらに、生徒の姿をアンケートや日常の生活から把握し、内容項目に対して、生徒がどのくらい道徳的な価値の理解や意識ができているのかを分析して発問を考えることにした。

- ①内容項目の分析と把握をする。生徒の実態を把握する。
 - ②「道徳的判断力」「道徳的心情」「道徳的実践意欲」「道徳的態度」のどれをねらいとする活動場面にするのか意識し、明確にする。
 - ・「道徳的判断力」・・それぞれの場面で善悪を判断する能力
 - ・「道徳的心情」・・・道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行なうことを喜び、悪を憎む感情
 - ・「道徳的実践意欲」・道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き
 - ・「道徳的態度」・・・道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え
 - ③中心発問を検討する。
 - ④補助的な発問、問い合わせる発問を検討する。

(ウ) 「水一中版 発問検討シート」の作成

発問を作成するにあたり、中心発問を考える視点が共通理解できるように、発問検討シートを作成した。展開の前半では、葛藤する場面や考えを深める場面を中心とした発問や活動を設定した。その後、中心発問では、自分との関わりを考えることができるような発問を設定するよう心がけた。

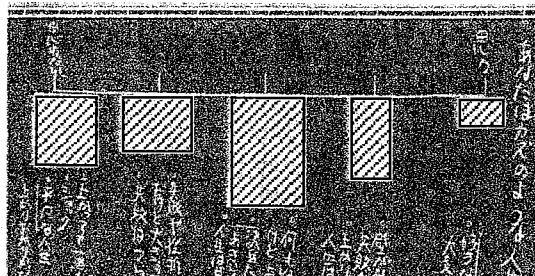
水一中版 発問検討シート	
本時のねらいは何ですか？	
①道徳的な価値を問う発問を考えましょう（中心発問です） 「価値を問う」…「○○はなぜ大切なのか」「本当の○○は何だろうか」 「○○にはどんな意味があるのか」「○○が大切にしていることは何だろう」	
② ①に入る前にどんな発問や活動をしますか？	
「場面を問う」…「～のとき○○はどんな気持ちか」「～のとき○○がどうしたのはなぜか」 「資料を問う」…「この話（場面）からどんなことがわかるか」 「この話（場面）が心を打つのはなぜか」 「人物を問う」…「○○の生き方をどう思うか」「○○の心を支えているのは何か」	
③ ①を深めるためや自分のこととして考えるために、どんな発問や活動を準備しますか？	

(イ) 「学び合い」の充実に向けて

道徳の時間は、ねらいとする道徳的な価値について生徒自身がどのように捉え、どのような葛藤があるのか、また価値を実現することにどのような意味を見いだすことができるかなど、道徳的な価値を自己との関わりにおいて捉える時間である。その際に、自分の考えをしっかりと持つことが重要になる。さらに、他の生徒の考え方や価値観に触れることで、自分の考え方をより深めることができ、道徳的な価値の自覚につながる。そこで、学び合うことができる活動を「学び合い」とし、ネームカードの利用、教具の作成、ペア・グループでの話合い、問い合わせの工夫を行った。

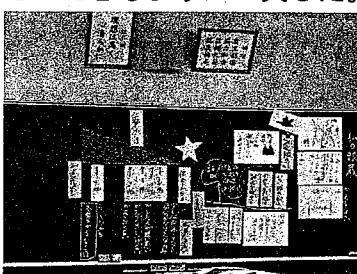
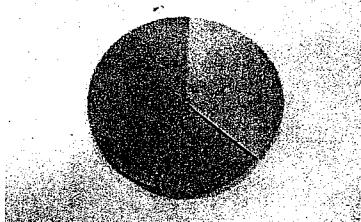
① ネームカードの利用

自分の考え方をネームカードで示す活動を取り入れた。生徒が自分の考え方を必ず持ち、自分が持った考え方を全体へ公開できるようにした。また、他の人がどのような考え方を持っているのか互いに確認させた。さらに、なぜ、そのような考え方を持つことができたのか理由も考えさせた。



② 自分の考え方を他者に伝えやすくする教具の作成

発問に対して、自分はどう思ったのかを、段階的、視覚的に表現することができるような教具（心情棒、心情円盤）を作成し、自分の考え方を他者に伝えることが容易にできるような工夫をした。できるだけ教具と板書やワークシートをつなげて考えることができるよう工夫した。



③ ペア、グループでの話し合い活動

学習活動に、話し合いの時間を設定した。生徒同士のやり取りの中で、相互理解を深めたり、自分と違う考えに触れながら自分の見方、考え方を高めたりすることができる活動となるよう心がけた。

○話し合う内容や目的を明確に説明

「考え方を出し合う」「意見を比較する」「意見をまとめる」(教具やワークシートの工夫)



○意見・考え方を全体で共有(ホワイトボードの活用)



○見方・考え方の高まりや深まり、自分との違いを発見、多様な意見に触れる

④ 「問い合わせ」の工夫

意見を出して終わりにならないように、生徒が発表した後、「問い合わせ」の発問を準備し、考え方を深まるようにした。

「問い合わせ」の言葉を整理することで、どれを活用するのか検討できるよう工夫した。

◆発表させたら、ぜひ「問い合わせして」深めましょう！！◆

「どの考えに最も納得できましたか？」

「どの考えが最もよいでしょうか？」

「どの考えが最もするべきことでしょうか？」

「どの考えが最も好きですか？」

「どの考えが最も行きやすいでしょうか？」

「どれをしたことがあるかな？」

「どの考えにも共通していることは何かな？」

「○○さんの立場ならどれが大切かな？」

「すべての人にとってどれが最も大切だろう？」

これらに近い
ものでも構い
ません。ぜ
ひ、問い合わせ
ましょう！

(オ) 「水一中版 道徳の時間 授業モデル」の作成

道徳の時間の充実に
向けた取組をまとめ、
「水一中版 道徳授
業モデル」を作成し、
共通理解を図りながら、授業づくりに取り組めるようにした。

水一中版 道徳の時間 授業モデル

過程	時間	学習活動	主な発問・指示(□) 予想される生徒の反応(・)	指導上の留意点	備考
つかむ	※短時間で	①【導入段階】 主題への興味、関心を高める。主題に関わる問題意識を持たせる。 ○挿絵の提示 ※ICT等を活用	○アンケートの提示 ※心情円盤など道具の活用		
考える		②【教材の提示について】 読み物教材は、長い場合は工夫をして提示する ※事前に読ませておく ※きり読みする場合は意図を明確に持つておく	※ICT等を活用		
		③【中心発問につながる発問】※③又は④で話し合う場面を設定する ○教材の内容に関する確認 ※時間配分の工夫 ※心情円盤・心情棒の利用	○登場人物の心情を整理する ※ICT等を活用 ※学習形態の工夫 ※ネームカードの利用 ※板書の工夫		
	※計画的に話 し合う時 間を確 保する	④【中心発問】※③又は④で話し合う場面を設定する →多面的・多角的に考えることができる内容にする ○心情可視化できる道具の利用 (心情円盤、心情棒、ネームカード) ※自分の考えを表現しやすくなる工夫 ○道徳的価値の葛藤が起きるような発問の工夫 ○話し合い活動の充実 ※役割の明確化(会社、記録、発表など) ※話し合いの内容の明確化(絞る、複数可、まとめる) ※形態の工夫 ※発表方法の工夫(ホワイトボード、色つきのカード、巨大心情円盤・心情棒)	◆発問検討のポイント◆ ・気持ちをしっかりと見つめる発問 ・自分に置き換えて考える発問 ・セット発問(資料レベルの発問 【十道徳的価値の自覚を深める視点に迫る発問】) ・多面的・多角的に考えることができる発問。 ◆「場面発問」「テーマ発問」(例) 【場面を問う】 「～のとき、○○の気持ちはどんな気持ちか」 【資料を問う】 「この話からどんなことがわかるか」 【人物を問う】 「○○の心を支えているのは何か」 【価値を問う】 「○○が大切にしていることは何だろう」		
まとめる	※時間 を確保 する	★【意見が出てからの問い合わせの発問】 ○考え方を深める発問 ○意見を整理する活動 ※状況に合わせて(事前に準備しておく) 「どの考えに最も納得できるか」「どの考えが最もすべきことか」「どの考えが最も好きか」「どの考えが最も行きやすいか」「どの考えにも共通していることは何か」「○○さんの立場ならどれが大切か」	○発表、交流の時間工夫する ○教師の説話 ※ICT等を活用	今後どのように生かすかを考える時間 ○道徳ノートの活用 ※その後の指導と評価に生かす	
		⑤【本時の授業を通して、自分のことを振り返り、			
		○ワークシートの工夫 ○私たちの道徳の活用 ※時間の確保			

イ 視点2：評価の工夫・改善（熊本県道徳教育推進協議会からの「提言2」に関連）
ワークシートをファイリングすることで、生徒の道徳性に係る成長や学習の様子を継続的に把握することにした。

(ア) 道徳性に係る成長に関する評価

主にワークシートの生徒感想をもとに評価を行った。終末では、「今日の学習を通して、今までの自分を振り返って考えたこと、気づいたこと、新しく考えたこと、これからのこと書きましょう。」という文言にした。また、「友だちの考えを聞いて新しい気づきや発見を書きましょう。」という欄を設け、他の人の考えをもとに自分の考えが深まった点についての記述も残すようにし、評価を行うこととした。

(イ) 学習状況に関する評価

ワークシートの最後に生徒の自己評価の欄を統一して設けることとした。時間配分等も考え、質問内容は精選した。

★振り返ってみよう★			
①今日の授業で大切なことがわかりましたか。			
4	3	2	1
②自分の心を見つめることができましたか。			
4	3	2	1

(ウ) 「道徳ノート」の作成

道徳の時間における生徒の成長を継続的に把握することができるように道徳ノートを作成し、それにワークシートをファイリングしていく取組を行った。ワークシートの作成にあたっては、できるだけ板書との整合性を図り、授業後には、教師が線を引くことやコメントを書くことを共通実践した。

一定の期間をおいてワークシートを見返すことで、道徳の授業で自分の考えがどのように変化したか生徒自身も見ることができるようとした。

ウ 視点3：指導体制の工夫（熊本県道徳教育推進協議会からの「提言3」に関連）

(ア) 研究授業の実施

道徳の時間の充実を目指し、講師招へいによる研究授業の実施に取り組み、授業の改善に努めた。また、学年別でも研究授業に取り組み、担任以外も必ず年一回の授業実践を行うことにした。時間割を工夫し、その後の研究会も実施できるように配慮した。

(イ) ローテーション授業の実施

同じ学年の道徳の時間をずらし、あるクラスで道徳の授業があるときには他の担任が空き時間となるように時間割を設定した。こうすることにより、担任学級だけではなく担任外の学級でも複数回同じ道徳の授業を行えたり、他学級の道徳の授業を参観したりすることで学び合うことができる体制づくりを行った。

エ 視点4：全体計画・年間指導計画の見直し（熊本県道徳教育推進協議会からの「提言4」に関連）

新たに再編された内容項目への対応を行った。先ず、学校及び学年の重点指導内容項目を再検討し、全体計画の見直しを行った。また、年間指導計画及び別葉についても「私たちの道徳」や「熊本の心」の関連について見直しを行った。

オ 視点5：家庭・地域との連携（熊本県道徳教育推進協議会からの「提言5」に関連）

(ア) 「熊本の心」の授業公開

「熊本の心」の公開授業を年一回行っている。DVDやテレビ放送等も活用した授業実践を行った。また、学級通信等に授業の様子を掲載し、保護者等にも郷土資料についての普及・啓発を行った。

(4) 地域教材の開発と地域人材の活用

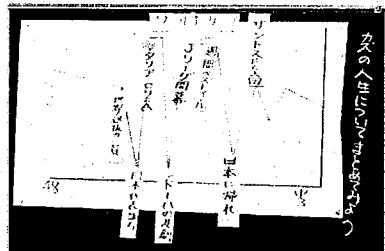
地域に関わる自作教材を制作した。また、地域人材をゲストティーチャーとして招き授業を行った。



力 視点6：指導方法改善に向けた取組

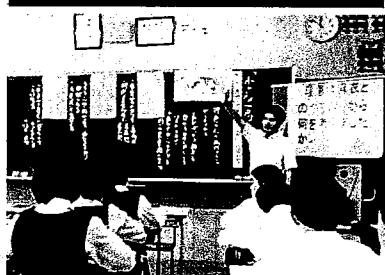
(7) 板書の工夫

登場人物の心情理解や教材の内容をわかりやすく整理するためには、板書の工夫に取り組んだ。心情円盤や心情曲線などを取り入れ、気持ちを割合や高さで表現して、登場人物の心情が把握できるようにした。



(4) I C T 機器の活用

I C T 機器を効果的に活用することで、教材への興味関心を高めたり、生徒の思考を深めたりすることができる。大画面テレビとコンピュータを利用し、導入段階での活用、資料の提示場面での活用や発問の提示、終末でのまとめに活用した。板書との関わりがわかるような活用を心がけた。



キ 視点7：道徳性を育むその他の活動について

「道徳コーナー」の設置

生徒の豊かな心の育成の視点から、校内掲示に「道徳コーナー」を設けた。学校の重点目標と「熊本の心」や「私たちの道徳」で取り扱った内容を中心に掲示することにした。また、生徒がよく目にする場所を選んで設置した。

(2) 道徳教育研究部の取組の成果 (○) と課題 (▲)

ア 視点1：多様な指導法の工夫

○ 下に示すアンケート結果のとおり、「道徳の授業が役に立つ」と答えた生徒の比率が高かった。特に2年生においては、「道徳の授業が好き」と答えた生徒が増えた。

記述評価においても、「人の心のあり方について学んでいるため、しっかり考えれば相手の気持ちが分かる人になれると思うから。」や「人が経験したことが学べるから。」「自分もこういう人になろうと見習うことができるから。」などが大半を占め、取組の成果が表れた。

項目	実施月	3年生	2年生	1年生
道徳の授業で学んだり、考えたことは、将来役に立つと思いますか。	H28.7	82.6%	95.2%	82.5%
	H28.11	○ 85.4%	○ 94.0%	80.5%▲
道徳の授業は好きですか。	H28.7	63.0%	58.2%	47.5%
	H28.11	○ 64.0%	◎ 69.5%	○ 58.4%

*「そう思う」と「どちらかというとそう思う」の合計

○ 学び合いについては、生徒から大変好意的な意見が多くあった。「一人一人の考えがあって、みんなの考えを聞くのが楽しいから。」「今までとは違った考え方、見方を知ることができ、相手の考えていることを知ることができるから。」「自分の考えを聞いたりして、返してくれるから。」など学び合いの意義を改めて実証することができた。教具についても、学校化ができた。

▲ 発問の質を高め、「考え、議論する道徳」に迫るために水一中版発問検討シートを改善していく必要がある。

▲ 道徳の授業に対して、消極的な印象を持つ生徒がいることから、生徒の興味・関心をさらに喚起する必要がある。

イ 視点2：評価の工夫・改善

○ ファイリングするなど、学校組織としての具体的な評価のあり方について統一化して考えることができるようになった。

▲ 記述の内容をどのように評価していくのか、今後検証を深めていく必要がある。

ウ 視点3：指導体制の工夫

○ 道徳の授業づくりに対する取組の組織力が高まった。担任外も道徳の研究授業に何度も取り組み、授業改善を充実させようとする組織の一体感が生まれた。感覚的な一体感はもちろん、具体的な取組として、授業づくりの基本形をもとに議論できるようになったことは大変意義深いと言える。

▲ 「ローテーション授業」に対しては、指導者が入れ替わり授業を行うことのメリットはあるものの、研究活動の理由や方法に関することを生徒に説明するなど、授業を受ける生徒側への配慮や準備が必要であることが生徒へのアンケートからわかった。

エ その他

▲ 題材に興味が持てないような感想に代表されるように、発問だけでなく、魅力的な題材開発と行事との関連をさらに図る必要がある。(視点4：全体計画・年間指導計画の見直し)

▲ 年1回は道徳の公開授業を行っているが、家庭・地域との連携をさらに深めていく必要がある。(視点5：家庭・地域との連携)

▲ 下に示すアンケート結果のとおり、題材と実生活がややかけ離れた印象をもっている生徒も少くない。題材選定とともに、より実生活に即した内容について考えられるような発問にしていく必要がある。

質問項目	実施時期	3年	2年	1年
道徳の授業で学んだり、考えたことを意識しながら生活していますか。	H28.7	68.5%	68.2%	66.3%
	H28.11	62.9%▲	61.0%▲	61.0%▲

(3) 集団づくり研究部の取組

集団づくり研究部では、特別活動を中心として、互いのよさや持ち味を感じさせる工夫を行い、よりよい人間関係づくりへの取組を行った。特に、次の3つの実践を中心に取り組んできた。

ア hyper-QUの実施と活用

(ア) 分析会の実施

4月、11月の結果を受けて、教育評価研究所から講師を2度招へいし、分析会を学年ごとに行つた。

(イ) 支援シートの作成

1回目の結果を受けて、各学級（9クラス、支援学級3クラス）でそれぞれQU支援シートを学級担任が作成した。そのシートを持ち寄り、学年ごとに学級、または個別の対応について考えた。特に要支援群の生徒、個別データで気になる生徒については、じっくり検討し、具体的な取組の手立て、支援について話し合いを行つた。支援シートは、管理職、市特別支援教育支援員にも配付し授業や行事などでの取組で、意識して声をかけるなどの活用を行つた。

(ウ) 生徒への手立て

生徒にも現状を意識させるために、「友達づくりの達人」の項目で、個人票を活用し、現在地、自分のタイプ、目指すものを意識できるように振り返らせた。

(エ) 「生徒理解夕会」の実施

要支援群や要支援に属する生徒を中心に、月に1度「生徒理解夕会」を行つた。担任から報告し、問題が起つた事案や気になる生徒の様子など情報を共有した。また、支援していく中で、その生徒にあつた手立てを報告するなど、共通理解を図り対応した。

(オ) 成果

① 学級の変容例 (▲=全国平均を下回つたもの、○=全国平均を上回つたもの、◎=伸びが顕著なもの)

	友人との関係	学習意欲	教師との関係	学級との関係	進路意識
全国平均	17.0%	14.8%	13.8%	15.2%	14.6%
学級平均 (4月)	○ 17.9%	○ 15.9%	○ 15.3%	○ 16.9%	○ 15.2%
学級平均 (11月)	◎ 18.2%	○ 15.1%	◎ 16.0%	◎ 17.1%	▲ 13.4%

「管理型」から「満足型」へ移行した。また、満足群も52%から70%と増加し、「不満足群」の生徒はいなくなった。一人一人のよさや持ち味を発揮する場をそれぞれに与え、活躍する場面をつくつたことで、自分に自信を持つようになった生徒も増えている。

② 個人の変容例

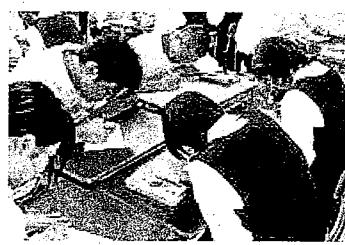
1年生から3年生の4月まで、「要支援群」にいた生徒が、11月のアンケートで、「満足群」に移行した。該当生徒は、自尊感情、自己肯定感が低く、遠慮して言いたいことを我慢してしまう傾向にあると分析した。そこで、学年で話し合い、毎日の声かけを必ず行い、生活の記録のコメントを担任が意識して確認することや、行事ごとの感想を学級通信に紹介することなどを意識して取り組んだ。また、絵や習字などの特技を生かせる場面を積極的に活用し活躍の場を設定した。文化祭においては、壁新聞・看板書きなど中心的な存在として活動した。さらに、壁新聞は、熊日コンクールで優秀賞を受賞し、取り組んだことが評価されたことも大きく影響したと考える。

イ 構成的グループエンカウンター

生徒が集団の中で、互いのよさを認め合うことができ、意見交換ができるためには、よりよい人間関係が不可欠である。そのために、構成的グループエンカウンターの手法を取り入れ、生徒のよりよい人間関係づくりを図った。月に2回を目処に、7時間目（25分間）を設定し、それぞれのエクササイズで、ねらいを明確にして取り組んだ。

（ア）構成的グループエンカウンター 一年間計画とエクササイズ例—（全学年）

回	段階	時期と生徒の様子	ねらい	エクササイズ例
1	交流・受容（予防的）をめざす	○4月 年度当初（学年開き） 知り合い同士相互依存または孤立の時期。	他者理解 (他者受容) (ふれあい)	【X先生を知るイエス・ノーケイズ】 中学校生活の窓口になる担任をよく知り、不安を軽減するとともに、担任の自己開示をモデルとして自己紹介できるようになる。
2		○4月 年度当初（学級開き） 少しずつ小集団が形成されているが、友達づくりに乗り遅れた子どもが出てくる時期。	他者理解 (他者受容) (個人紹介)	【探偵物語】 クラスの友達のことをよく知り、不安を軽減するとともに、自己開示を行う。
3		○5月 体育大会後 学級が組織化され、クラス成員がよく知り合う時期。	信頼感 (思いやり) (連帯感)	【私たちが得た宝物】 体育大会で各自がどのように役割を担い、果たしたかを確認し、感動体験を分かち合い、次の行事のステップにする。
4		○6月 人権月間 係活動が機能し、友人関係も深まる時期。部活動や行事の疲労感から孤立感を感じる生徒が出始める時期	自己理解 (他者理解)	【二者択一】 学級集団のまとまりができ小集団で行動する機会が増えてきている中で、お互いのことを改めて理解し、共感的な態度を持つ。
5		○7月 夏休み前	自己理解 (ソーシャルスキルアップ)	【結婚にとって大切なものの】 集団づくりにおいて大切な「価値観」の多様性を学び、互いに認め合ったり共感し合ったりすることで、自己理解・他者理解に努める。
6		○9月 夏休み明け 心身の成長が目立つと共に、集団相互で影響を受け合う時期。	自己理解 (ソーシャルスキルアップ)	【友だちづくりの達人】 集団づくりにおいて大切な「価値観」の多様性を学び、互いに認め合ったり共感し合ったりすることで、自己理解・他者理解に努める。（Q Uカードの個人票を返却）
7		○10月 文化祭 創造性、企画性が発揮され、集団としてまとまる時期。	自己理解 (他者理解)	【実は〇〇なんです】 集団づくりにおいて大切な、自己理解や他者理解に努め、自分を見つめ直し、自己啓発の力を伸ばす。また、他者の新たな発見に気づかせて理解を深め、よりよい集団をつくろうとする。
8		○11月 行事が一段落 個人の利害と集団の利害に矛盾が出てくる時期。	信頼感 (思いやり)	【〇年〇組へ】 学校行事などが一段落し、創造性や企画性などが発揮され、集団としてまとまる時期である。そこで、各個人が友達や学級への信頼感や、思いやりをより強める。
行事後		○行事後の活動。	他者理解 (思いやり) (ソーシャルスキルアップ)	【秘密の友だち】 行事ごとに、それまでの取組を振り返り、匿名の友人から称賛の言葉が書かれた手紙をもらい、自信をつけ、次なる目標を持つことができる。



(イ) 「振り返りシート」の活用

構成的グループエンカウンター実施後は、毎回、「振り返りシート」を実施し、その活動の様子を把握するようにした。

エンカウンター 振り返りシート

()年()組 ()号 氏名()

4→とてもよくできた 3→まあまあできた 2→あまりできなかった 1→できなかつた

Q1	思っていることを素直に発表できましたか	4 3 2 1
Q2	友達の意見や考え方を受け入れる場面はありましたか	4 3 2 1
Q3	仲間の良い面が発見・理解できましたか	4 3 2 1
Q4	班員と協力してできましたか	4 3 2 1
Q5	今日の時間は充実していましたか	4 3 2 1

★今日の活動を振り返り、気づいたことを書きましょう★

(ウ) 構成的グループエンカウンターの取組の検証と成果

【事例1】 (第1回目)

		Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	合計	平均
学級	平均	2.94	3.21	3.09	3.30	3.30	15.85	3.17

(取組最終)

		Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	合計	平均
学級	平均	3.61	3.61	3.52	3.55	3.52	17.79	3.56

Q2とQ3に対する回答平均が低く、他者理解、他者交流が弱いと分析した。振り返りの結果をもとに、時期と生徒の様子を考えながらエクササイズを提案した。

Q2、Q3の解答は、上昇し取組の成果を感じられる。またそれ以外の問に対しても上昇している。子ども達の感想に「友だちの知らない部分を知ることができる楽しい時間だった。」「自分自身でも見えていないことがあった。友だちに教えられて知ったこともあったので、その部分を大切にしていきたい。」「自己開示できるようになってきた。エンカウンターは楽しい。」という感想も聞かれた。

【事例2】 (第1回目)

		Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	合計	平均
学級	平均	3.14	3.61	3.29	3.57	3.61	17.21	3.44

(取組最終)

		Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	合計	平均
学級	平均	3.93	3.82	3.71	3.79	3.93	19.18	3.84

全ての項目で上昇し、取組の成果を感じられる。特に、著しい伸びが見られたのがQ1である。Q1の平均が低いクラスの対応として、班での役割や発表などに配慮し、自分の思いや発言ができるような環境づくりを整えた。その結果、Q1の結果が上昇している。それぞれの役割を明確にすることにより、発表しやすい雰囲気になったことが結果から分かる。

ウ 話合い活動

(ア) 生徒による話合いの実際

(1年「初めての定期テストに向けて、クラス一丸となって取り組めることを考えよう」)

定期テストに向けて意識を高め、進路に対しての関心を持つとともに、活動内容を考え実行し振り返ることを通して、毎日の学習を大切にしようとする態度を育てるという目的で、話合いを行った。事前の取組として、議長1名、副議長2名、黒板書記2名、ノート書記1名、計6名で計画委員会を作り、立案、小柱、流れについて確認した。

過程	主な活動内容	日時	教師の指導・支援	観点（評価方法）
	計画委員会による議題の決定	5/18 昼休み	アンケート結果から、議題の決定へと導く。	
話 題 分 析 い 準 備	計画委員会① (司会グループ・提案者 めあて・柱を決める)	5/20 昼休み 放課後	めあてを決める際に、キーワードを見つけ出すよ うに促す。	※計画委員会 関・意・態 思・判・実 知・理 (発言・シート)
	自分の考え方を持つ (活動シートへの記入)	5/23	提案理由を確認させる。 悩みや不安を共有し、活 動の目的について理解さ せる。	
	計画委員会② 話合いの準備・進め方の確認	5/24 5/25 昼休み	時間配分と話合いの流れ に関するイメージを想定 させる。	
集 団 決 定	内容、役割分担についての話合 い・感想交流	5/27	集団決定が円滑にいく ように支援する。	思・判・実 (発言・シート)
実 践	役割分担・各係による準備	5/30 帰りの会	目的を確認する。	
	決定事項	5/31 ～ 6/10	主体的・共生的な言動に 対する称賛をする。	関・意・態 思・判・実 (観察・シート)
振り 返 り	振り返りシート 感想交流	6/11	活動を創ったことに対す る価値づけをする。	知・理 (発言・シート)

「昼休みに分からないところを教え合う班学習会を行う。」ということを決定し、期末テストまでの期間に取り組んだ。話合いの仕方（議長団の流れ）や決定の仕方（折り合いのつけ方）については課題が残った。

(イ) 職員による話合いの実際（職員 議題「より職員集団がまとまるためには、どうすればよいか」）

* 話合い活動の仕方についての職員研修（シミュレーション活動）

夏休みに、職員集団で話合い活動を実際にを行い、話合い活動の流れについて、また決定の仕方について議論した。議論の末、話合いには以下の視点や配慮点が必要であることを確認した。

- ①話合いを整理するために「論点整理」する場面が必要である。
- ②多数決ではなく、折り合いをつけながら話合いを進めていくことで、意思を尊重し合い、納得いく話合いができる。
- ③生徒の意見が視覚的に分かり、話合いの流れが見えるような板書にするために各クラス同一の教具を配付し、活用の仕方も統一する。
- ④意見を出しやすくするために、小柱1・2に入ってからすぐにペアトークを設け、話合いの雰囲気づくりをする。など



職員研修の様子

- (ウ) 学級会を行う際の基本的な流れの学校化
学級会を実施するにあたって学校としての基本的な流れを設定した。

話し合い活動の基本的な流れ

事前の活動

- ①課題の発見
 - ・日常から見える課題
 - ・朝、帰りの会の話題
 - ・アンケート
 - ・行事に関する事などによる議題の収集
 - ・日常生活のルール作り
- ②計画委員会の話し合いによる議題の決定
 - ・提案理由の具現化
 - ・役割分担、話し合いの柱、めあての決定
- ③議題に対する意識
 - ・原案の説明



話し合い活動の様子

本時の活動

- ①はじめの言葉
- ②役割紹介（議長・副議長・黒板書記・ノート書記）
- ③議題確認
- ④提案理由の説明
- ⑤話し合いのめあて
- ⑥先生の話
- ⑦話し合い（小柱1・小柱2）
- ⑧決まったことの発表
- ⑨振り返り・キラリさん発表
- ⑩先生の話
- ⑪終わりの言葉



話し合い活動の様子

事後の活動

- ①実践を振り返り、活動の中身や自分の取組、友だちの頑張りなどをシートに記入する。
- ②活動の成果について振り返り、評価する。

学級活動(話し合い)の流れ

(I) 学級会司会マニュアル（シナリオ）と学級活動記録用紙の作成
話し合い活動のシナリオと話し合い活動の記録用紙を作成して、取組の統一化を図った。

《司会マニュアル》

〔1-聞き合って〕	
司会者	(1) お立ち、手をつけて、今から第()回学級会を始めます。礼、否認。 (2) はじめに、今日の司会者のメンバーを紹介します。 当時の()さんです。運営会の()です。 黒板書記の()さんです。ノート書記の()さん。
司会者	(3) それでは、今日の議題と提案理由を運営会の()さんに言ってもらいます。 (4) 今日の議題は()です。議題提出は()です。
司会者	(5) (運営会の氏名)さん、ありがとうございます。この議題を話し合うための小会を開催します。 小会では()、小会終は()です。
司会者	(6) 次に話し合いのめあてをノート書記の()さんに言ってもらいます。 (7) 今日の話し合いのめあては、()です。めあてが達成できるようにがんばりましょう。
司会者	(8) 話し合いに入る前に、先生から何がありですか。 ※先生が話をすると。(しない場合はある)
(元三)	

〔2-振り合って〕	
司会者	(1) 話し合いをはじめて、小会では「〇〇〇」という内容の話し合いであります。小会のについて事前に用意してある自分の考え方を、ペアトークでお互いに紹介してください。 (2) 少し立ってから (3) それでは、小会のについて全体に提案したい自分の考え方やその理由を発表して下さい。 (4) いろいろな意見が出てから (5) 提出された発案に対する意見を整理します。 【意見が提出されない時は、ペアトーク・3人組などの形態で話し合いを2~3分取り入れてみる】 【グループ内の決まり方】「運営会→司会→2番→記録→了番→発表など」
司会者	意見の整理 A 「しおり込む必要がある場合」 IA(1) 提案に対する意見を整理しますと、()と()………の()つになります。 B 「しおり込む必要がある場合」 IB(1) 提案に対する意見を整理しますと、()と()の(2or3)つになるようです。これらの意見にしまって話合いを進めたいたいと思いますが良いでしょうか。 【発案の取り込みについて、発案をどうした後、意見を聞く】 IB(2) 意見に対する意見整理を、みんなの手によって整理したいと思います。1人()回かつ手を取ってください。 【発案の意見は運営会が決める】 みんなさんの着手の結果、()と()の(2or3)つになるようです。これらの意見にしまって話合いを進めたいたいと思いますが良いでしょうか。
司会者	

話し合い活動司会マニュアル（シナリオ）

第 回 学級会記録

月 日 ()

1. 学級会の議題等

(本日の議題)				
(提案者)				
(司会)	(副司会)	(黒板書記)	(ノート書記)	(椅子整理)
(話し合いめあて)	(自分のめあて)			
(進め方)				
1. 開会(誓詞) 2. 運営会紹介 3. 議題と提案理由、めあての確認	4. 話合い 5. 決まったことの確認 6. 話合いの気づき/感想			
	7. 技り返りの話合い 8. 先生の話 9. 閉会(誓詞)			

2. 議事（話し合う内容）

(小柱①)	
(自分の考え方とその理由)	(ペアトーク・3人組で話し合って) (決定したこと)
(小柱②)	
(自分の考え方とその理由)	(ペアトーク・3人組で話し合って) (決定したこと)

3. 技り返り

〔自己評価 ○・△〕	〔キラリさん〕 〔理由〕
自分の考え方を持って話し合いに参加できた。	さん
自分の意見を言うことができた。	
他の人の意見をしっかり聞くことができた。	〔授業の感想〕
他の人の意見を聞いて、自分の考え方を深めることができた。	

学級活動（話し合い）記録用紙

(オ) 折り合いをつける話し合いの指導

話し合いにおいて、複数の意見を一つにまとめるために、多数決による決定方法ではなく、「折り合い」をつける指導を行った。いろいろな意見があることを理解させ、誰もが納得した結論を出す練り上げの中で、互いに気遣い、大切にしようとする態度づくりができる。また、集団決定の重みを理解させ、決定したことには気持ちよく従う意識づくりにもつながると考えたからである。

このような話し合い活動のねらいを達成するために、「折り合いのステップ」を示して、学級会のオリエンテーションで確認した。また、話し合いの内容を自分たちで深めていくために「発言レベルアップカード」を作成し、より質の高い話し合いができるよう心がけ、目標を持たせる一助とした。

折り合いのステップ	
1 いろいろな意見があることを知る	
2 集団決定の重さを理解する	
3 みんなも自分もいい方法を見つける	
4 決定には気持ちよく従う	
5 心遣いをしながら活動する	

◇◆◇ 発言レベルアップカード ◆◆◇

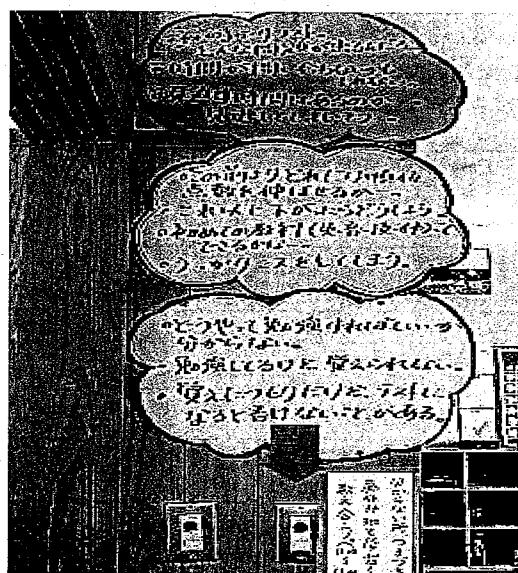
()組 名前()

発言の範囲と具体的な発言	
レベル1	提案理由を元にした自分の考え方、学級会シートに書く。 友達の意見を最後まで聞く。 手を挙げて自分の考えに理由を付けて発言する 「私は、ここだと思います。理由は、……だからです。」
レベル2	賛成や反対の気持ちを、理由をつけて伝える。 「私は、○○の意見に賛成（反対）です。理由は…だからです。」
レベル3	日常生活の様子を別に出して伝える。 「私は、○○のとき～なので」以前クライスでは○○の時～」
レベル4	これまでの経験を出しながら発表する。 「○生年の時～だったので」○○をしたときに～だったので」
達成したレベル	○のついた合計

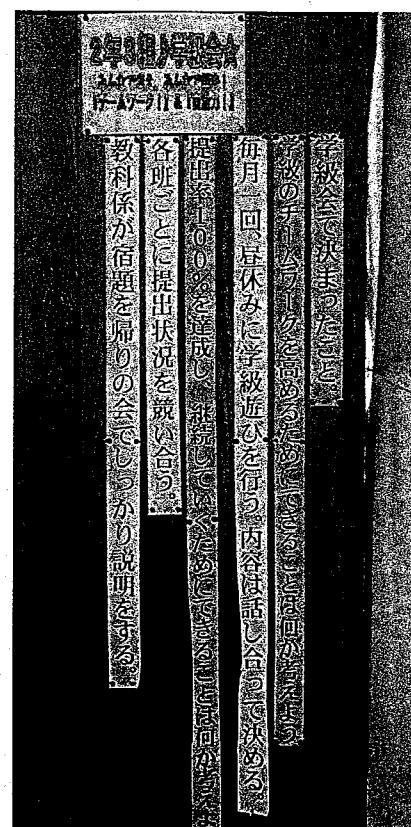
話し合いの内容を自分たちで深めていくために作成した「発言レベルアップカード」

(a) 話合い活動後の決定事項の教室掲示

話し合いの決定事項を教室に掲示して、みんなで必ず守り、実行するということを意識づけるようにした。



話しいで決まつたことを
掲示しています。



(4) 学習指導研究部の取組

学習指導研究部では、確かな学力の育成を目指し、主体的に学ぶ態度や学習意欲に関する研究を行った。特に、次の5つの実践を中心に取り組んできた。

ア 各教科におけるPDCAサイクルについて

(ア) 教師のPDCAサイクル

各教科におけるPDCAサイクルでは、昨年度から取り組んでいる「自己目標設定シート」を活用し、個人の目標を明確化した。昨年度の反省で、目標を立てた後に、自分の個人目標を見る機会があまりなかったことが挙げられていたため、今年度はそれぞれの個人目標をしおりにして、週案に挟むようにした。また、学期毎に行っていった反省を毎月行うようにした(図1)。これによって自分の目標を意識する回数が増え、よりよい授業の展開に近づけるようになった。

H28度 水一中版授業展開モデル自己評価シート			
下記の各項目について4段階で自己評価して下さい。 ○:できている ○:だいたいできている ○:あまりできていない ○:できていない			
	9	10	11
① 「学びの心得」(今週の重点項目)を徹底させるために、授業初めに言葉かけをしている。			
② 生徒の意欲付けになるようなめあてを設定し、板書等をしている。			
③ 一日で学習の流れや学習した内容が分かるような板書をしている。			
④ 1時間の授業の中に「学び合い」の時間を設定している。 学び合いの場面を積極的に設けている。			
⑤ 生徒一人一人が考えをもち、生徒同士で共有し、考え方を広げたり深めたりできるような学び合いになるよう、意識して吟味した発問をしている。			
⑥ グループやペア学習等を行うときには、その目的を明確にし、生徒にも伝えるようしている。			
⑦ めあてと整合性のあるまとめをして、板書をしている。			
⑧ 本時のめあてに沿った評価をしている。			
⑨ 「学びの心得」(今週の重点項目)を評価して、生徒に返している。			
⑩ 本時で学習したことや、次時に学習する内容を確認し、復習や予習につながるような適切な課題を出している。			
感想			

図1

(イ) 生徒のPDCAサイクル

各教科の授業において、生徒自身が見通しを持って臨み、授業後には学習内容を振り返り、次内容へつなげることができるように予習→授業→復習の学習サイクルの徹底を図った。

イ 管内統一事項の徹底に向けた取組

昨年度の「水一中版 授業改善モデル」で課題のあった「学び合い」に焦点を当てたモデルを作成した。今年度は、この授業改善モデルを徹底し、全教科での共通実践が図られるように、職員室での掲示や授業改善モデルをしおりにして週案に挟むなど、意識する回数を増やすようにした。

6月実施の自己評価の集計で(図2)、特に落ち込みが見られた項目が、「生徒一人一人が考え方をもち、生徒同士で共有し、考え方を広げたり深めたりできるような学び合いになるよう、意識して吟味した発問をしている」2.5点(4点満点中)であった。また、「学びの心得(今週の重点目標)」を評価して、生徒に返している。」も2.5点と課題があった。そこで、教師側の発問の工夫として、「なぜ班活動をするのか」というねらいを持った学び合いを展開していくことと、学びの心得を終末に生徒へ返すことを徹底するようにした。

項目	6月	7月	9月	10月	11月
「学びの心得」(今週の重点項目)を徹底させるために、授業初めに言葉かけをしている。	2.7	2.9	3.2	3.4	3.4
生徒の意欲付けになるようなめあてを設定し、板書等をしている。	3.1	3.1	3.3	3.3	3.4
一日で学習の流れや学習した内容がわかるような板書をしている。	2.6	2.8	2.9	3.1	3.2
1時間の授業の中に「学び合い」の時間を設定している。 または、学び合いの場面を積極的に設けようとしている。	2.5	2.8	3.1	3.2	3.4
生徒一人一人が考え方をもち、生徒同士で共有し、考え方を広げたり深めたりできるような学び合いになるよう、意識して吟味した発問をしている。	2.5	2.7	3.0	3.3	3.4
グループやペア学習等を行うときには、その目的を明確にし、生徒にも伝えるようしている。	3.1	3.2	3.2	3.5	3.6
めあてと整合性のあるまとめをして、板書している。	2.8	3.0	3.4	3.4	3.6
本時のめあてに沿った評価をしている。	2.9	3.0	2.9	3.2	3.4
「学びの心得」(今週の重点項目)を評価して、生徒に返している。	2.5	2.8	3.1	3.2	3.4
本時で学習したことや、次時に学習する内容を確認し、復習や予習につながるような適切な課題を出している。	2.7	2.8	3.0	3.1	3.2

図2

ウ 家庭学習充実に向けた取組

昨年度から家庭学習時間が学校の目標としている時間に達していないことに課題があり、そのための対策として次の三点について取り組んだ。

(7) 「家庭学習の手引き」の改訂と指導の徹底

家庭学習の内容の充実を図るために、予習→授業→復習のサイクルになるように、かつ、生徒の実態に応じた取り組みやすい内容になるように今年度版を作成した。今年度版は、昨年度の学習の手引きに教師がこれまでに行ってきた学習方法の例を記載し、学習方法がわからないという生徒の支援となるように工夫した。

(8) 「家庭学習時間調査」

昨年度から生徒の家庭学習時間の実態把握とその変容を見取るために「家庭学習時間調査」を実施している。毎月第2週を「家庭学習強化週間」と定め、各学級担任と各教科担当からの呼びかけを集中して行い、その一週間の家庭学習時間を調査して比較した。その結果が次のグラフ(図3)のとおりである。

全体的に見ると、9月が1週間472分(67分/日)から、11月は595分(85分/日)へと増加した。10月は強化週間が中間テストと重なったこともあり、大きく増加した。

また、各個人の学習状況を分析すると、1日2時間(120分)以上の学習が達成できている生徒数(図4)も増加傾向にあることがわかった。さらに、1日当たり60分未満の生徒数は減少傾向にあることが分かったが、改善が見られない生徒もいることがわかった。調査結果(図5)は、職員の意識を高めるために職員室入り口に掲示した。

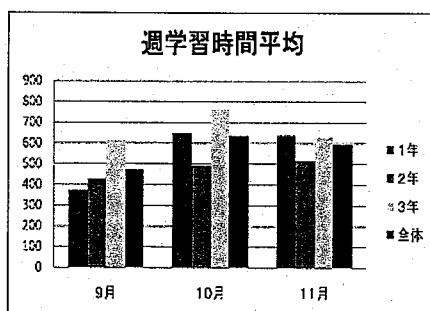


図3

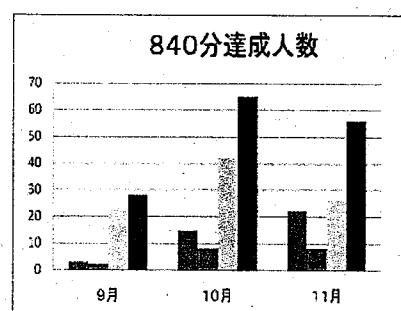


図4

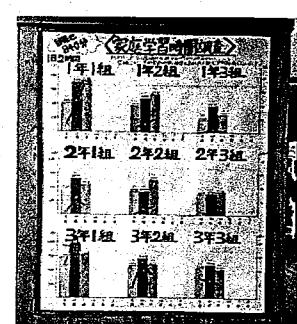


図5

工 学習規律の徹底に向けた取組

望ましい学習習慣を身につけさせるために、学習規律の徹底を図った。一昨年から学習委員会で取り組んでいる「学びの心得」を、今年度も引き続き実践した。今年度は昨年度の反省を生かし、各学級の得点が分かるようにグラフ化して、各学年の廊下に掲示した(図6)。また、1週間の集計結果を給食時間に放送し、学級単位で意識を高められるようにした。昨年度までは7項目を得点化していたが、今年度はさらに内容を精選し6項目にした。

学習規律に関する生徒の意識の実態と変容を見取るために、「学習アンケート」(図7)を5月と11月に実施した。その結果はグラフ(図8・図9)のとおりである。全体的に見ると、ほとんどの項目でいつもできていると答える生徒が増えた。しかし、各項目でできないと答えた生徒の割合が変化していない部分があることも分かった。

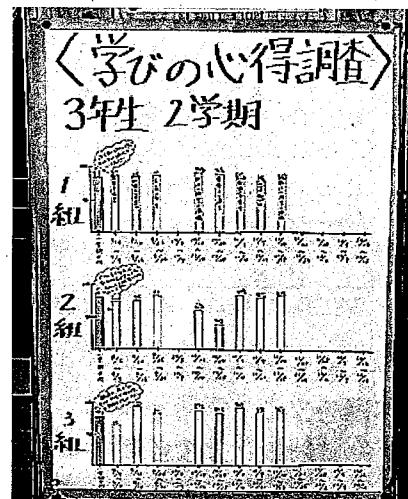


図6

① 次の授業の準備をしてから、休み時間をとっている	② 授業開始の黙想が号令に合わせてきちんとできている
③ 板書されたことをノート(ワークシート等)に書くことができている	④ 授業中、きちんとした姿勢で座り、話を聞くことができている
⑤ 授業中に配られたワークシートやプリントを整理することができている	⑥ 宿題は必ず家庭で全部できている
⑦ 学習用具はきちんと家に持ち帰っている	⑧ 学習用具の忘れ物はない
⑨ 提出物の期限はしっかりと守れている	

図7

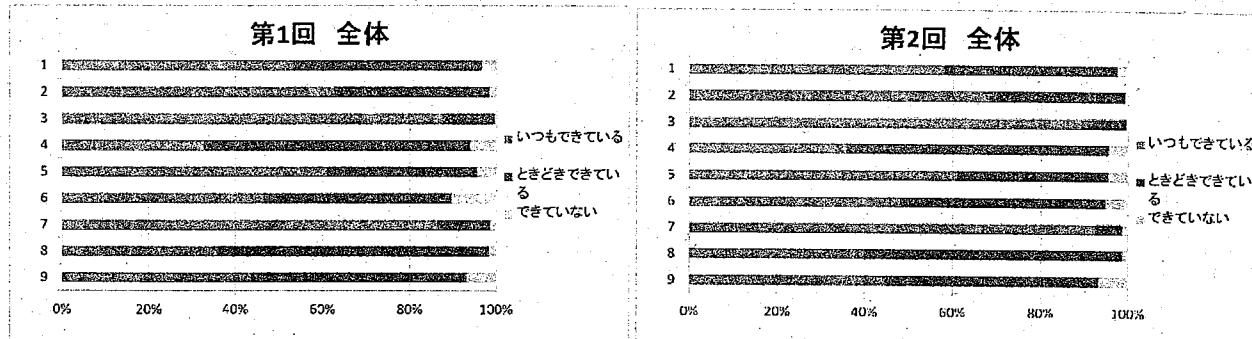


図8

図9

才 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた取組

今年度は、新たに特別支援教育の視点をふまえた学習環境づくりに取り組んだ。授業展開モデルに基づき、生徒の意欲を促す言葉かけや、学習の流れのわかる板書などに取り組んだ。また、始業1分前に予鈴をならすこと、授業と休み時間にめりはりをつけた。授業形態は個別学習や班学習などがあるが、なぜその形態にするのか、ねらいを明確にすることで効果的な学習になるようにした。さらに、集団づくり研究部と連携して、学級内の肯定的な人間関係づくりや、個別のニーズに応じた支援員の配置による個別指導、生徒の実態に応じた座席の工夫などを行った。

6 研究活動全体の成果と課題

◎=平成27年度の全国学力・学習状況調査の平均値に対して著しく上回ったもの、○=上回ったもの、△=下回ったもの）＊全て平成28年11月の結果

注1) 表中の数字、上段H27は、H27年12月(2,3年生)/H28年4月(1年生)

下段H28は、H28年11月(全学年)を表す。

注2) 斜線は、前年検証対象でなかった項目を今年度対象にしたもの。

(1) 学習習慣などに関すること

質問項目	実施時期	3年生	2年生	1年生
友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。	H27	+ 6.9	+ 0.4	* - 4.2
	H28	◎+12.2	○+ 7.0	◎+ 9.6
友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができますか。	H27			
	H28	- 0.9	○+ 1.0	- 6.0▲
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	H27	- 2.9	- 7.4	* +15.0
	H28	◎+13.7	◎+10.2	◎+17.4
家で、学校の授業の予習をしていますか。	H27	+27.1	+27.2	* +21.0
	H28	- 1.6▲	+ 0.8▲	+11.5
家で、学校の授業の復習をしていますか。	H27	-17.9	-15.6	* +10.5
	H28	◎+19.9	+ 0.4	◎+16.4
学校の授業時間以外に、平日、一日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。 *「2時間以上」の比較	H27	- 1.6	- 7.3	* -14.5
	H28	○+ 8.3	○-12.4	◎+11.5

多くの項目で改善が見られ、学習指導の成果と言える。「授業中に意見を発表すること」「家で計画を立てて学習をすること」「家で復習をすること」については、特に成果を上げている。一方、学習時間などでの学年格差が課題である。特に、「予習をしていますか。」は今年大きく下がった。学ぶ意義や目的を理解させる指導を、今後さらに充実させるとともに、学習のさせ方の統一を改めて図りたい。

(2) 生活体験等に関すること

質問項目	実施時期	3年生	2年生	1年生
学級みんなで協力して何かをやり遂げて、うれしかったことはありますか。	H27	+ 3.9	+11.0	
	H28	◎+13.6	+ 9.8	○+ 4.0
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。	H27	+11.5	+ 5.4	
	H28	◎+12.1	○+ 7.1	○+ 6.5
学級では、学級会などの時間に友だち同士で話し合って学級のきまりなどをきめていると思いますか。	H27	+ 4.9	+ 1.7	* + 3.0
	H28	◎+16.1	◎+16.9	◎+11.2

ものごとを最後までやり遂げて、嬉しかったことがありますか。	H27			
	H28	- 3.3▲	- 1.4▲	+ 0.6
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。	H27			
	H28	+17.1	+14.1	+ 6.4
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えことがありますか。	H27			
	H28	◎+30.7	◎+22.5	◎+17.7
学校に行くのは楽しいと思いますか。	H27	- 0.6	- 8.4	* + 4.0
	H28	○+ 3.3	○- 1.4	- 2.4▲

「学級みんなで何かをやり遂げて、うれしかったことがありますか」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。」「学級会などの時間に友だち同士で話し合って学級のきまりなどをきめていると思いますか。」「地域や社会への関心」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えことがありますか」と、道徳の指導や特別活動における取組に深く関わる項目で顕著な改善が見られたことは研究の成果と言える。

課題としては、若干全国平均を下回った「最後までやり遂げて嬉しかった」や、1年生において、「学校に行くのは楽しい」が下がっていることも正確に分析を行い、今後も改善を図りたい。

(3) 自己認識、規範意識等に関するこ

質問項目	実施時期	3年生	2年生	1年生
自分にはよいところがあると思いますか。	H27	+ 2.5	+ 4.6	* + 0.6
	H28	○+ 4.9	+ 3.0	○+ 4.6
人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。	H27	+ 2.0	- 3.3	* + 2.6
	H28	○+ 2.9	○+ 1.5	- 4.0▲
学校の規則を守っていますか。	H27			
	H28	- 2.3▲	- 2.9▲	- 1.0▲
将来の夢や目標を持っていますか。	H27	- 2.3	- 4.7	* + 7.0
	H28	○+ 4.4	-13.9▲	+ 3.0▲
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	H27			
	H28	○+ 0.7	○+ 3.9	- 1.5▲

研究を始めるに当たり、課題の一つとして取り組み始めた自己有用感が継続して改善していることは、研究の目標が達成されたと言える。「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」は、2学年で高まっており、他者意識が高まり、他人を大切にしようとする気持ちが高まっていると言える。

課題は、「学校の規則を守っていますか」が全学年で数値が低いことから、規範意識をさらに高めること、将来の夢や目標を高めるためにキャリア教育を充実させることである。さらに、学年間の格差があることから、数字に表れない意識や実態把握を工夫しなければならない。

7 今後の計画・展望

先進校の事例・実践を積極的に参考にして、研究指定校としての連続性や継続性を意識し、今後は以下のような研究活動を行いたい。

(1) 道徳教育について

- ・発問の質を高めるために、水一中版発問検討シートの改善や活用方法の検討を行う。
- ・生徒の興味・関心を高めるために、ゲストティーチャーの活用や題材開発を行う。
- ・行事等との関連を図るために、計画的な道徳ノートの活用を検討する。

(2) 特別活動について

- ・構成的グループエンカウンターや学級における計画委員会の取組を継続的して行う。
- ・Q U支援シートの継続的な活用を行う。

(3) 学習指導に関して

- ・学び合いを充実させるために、授業の終末に「どのような学びをしたのか」などを振り返る活動を行う。
- ・全体的な家庭学習時間の伸びがあるので、家庭と連携した個別指導の充実を図る。